

第3回八尾市総合計画審議会 議事録

日 時：令和8年7月2日（木）18時30分～20時30分

場 所：八尾市役所8階 第2委員会室

出席者：和田会長、和泉副会長、岡田委員（Web参加）、柳沢委員、中村委員、稲岡委員、
菱川委員、江口委員、浦野委員、高島委員、野村委員、卯川委員、川中委員、堤委員、事務局（関係課含む）

欠席者：木村委員

1. 開会

事務局

ただいまより「第3回 八尾市総合計画審議会」を開催いたします。

本日の司会を務めさせていただきます、政策企画部政策推進課長の平井でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は夜間の会議にもかかわらずご参加いただき、まことにありがとうございます。

会議につきましては、対面とWebの併用で開催してまいります。

それでは、会議開始にあたりまして、まず資料の確認をさせていただきます。

事前に送付させていただいております資料が、

- ・ 会議次第
- ・ 資料1：八尾市総合計画審議会 委員名簿
- ・ 資料2：第2期八尾市総合戦略（後期戦略）における指標・KPI数値目標一覧
- ・ 資料3：万博体験を活かした八尾のプロモーション展開事業に係る効果検証シート
- ・ 資料4：国登録有形文化財旧木村家住宅を活用したにぎわい拠点整備事業に係る効果検証シート
- ・ 資料5：2025年大阪・関西万博を契機とした「観光コンテンツ整備」事業に係る効果検証シート
- ・ 資料6：ICT技術を活用した建築行政サービス向上事業に係る効果検証シート
- ・ 資料7：公開型GISを活用した行政情報発信による市民サービス向上に係る効果検証シート
- ・ 資料8：企業版ふるさと納税
- ・ 資料9：答申（案）
- ・ 資料10：今後の審議会スケジュール
- ・ 参考資料：「ICT技術を活用した建築行政サービス向上事業」事業概要

となっております。

また、本日、机上に配布させていただいております資料が、

- ・ 座席表
- ・ 資料 2

こちらは、事前の資料発送時点で1つ未確定の数値があった分について、確定した数値を入れた完成版となっております。

- ・ 諮問書のコピー

こちらは、令和7年度第1回審議会にて市長から当審議会会長宛に手交されたものとなっております。

資料はすべてお揃いでしょうか。不足している資料があれば挙手くださいますよう、お願いいたします。

また、本日の会議の公開についてですが、昨年度に引き続き、会議、会議資料、会議録について公開とし、また会議録作成事務の都合上、録音させていただきたいと考えておりますので、ご了承いただきますよう、よろしくお願いいたします。

次に、団体内での人事異動等により、本日、新たに本審議会の委員となられました方々のご紹介をさせていただきます。資料1の委員名簿を併せてご覧ください。

<委員の紹介>

大阪府 商工労働部 商工労働総務課の吉田（よしだ）委員のご後任として、新たに委員となられました、中村（なかむら）委員でございます。

次に、ジェイコムマーケティング株式会社かわち局の飯伏（いぶし）委員のご後任として、新たに委員となられました、稲岡（いなおか）委員でございます。

次に、大阪シティ信用金庫の久保（くぼ）委員のご後任として、新たに委員となられました、浦野（うらの）委員でございます。

次に、株式会社 池田泉州銀行 八尾支店の上木（うえき）委員のご後任として、新たに委員となられました、菱川（ひしかわ）委員でございます。

なお、委員の委嘱状につきましては、机上配布させていただきます。

皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は委員15名のうち、現時点で13名の委員にご参加いただいております、本審議会の開催要件である、委員の過半数の出席を満たしており、会議が成立していることをご報告いたします。

それでは、ここからは、進行を和田会長にお願いしたいと思います。

和田会長、よろしくお願いいたします。

2. 第2期八尾市総合戦略（後期戦略）の進捗について

和田会長

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。次第 2. 第 2 期八尾市総合戦略（後期戦略）の進捗について、事務局、ご説明をお願いします。

事務局

（資料 2 説明）

和田会長

ただいま、事務局より説明がありました。

令和 7 年度から令和 10 年度を計画期間とする後期戦略の初年度について、指標の進捗や取り組みについてご説明がありました。

それでは、進捗管理・効果検証に移りたいと思います。指標の実績値や具体的な取り組みに関して評価できる点や改善すべき点、また、事務局の説明において不明な点がありましたら単に質問でも構いませんので、ご意見あれば挙手をお願いいたします。

卯川委員

私からは 4 点あります。

まず、基本目標 1 の「つなげる支援室で支援調整などを行い終結した割合」の終結というのは解決したということでしょうか。

また、つなげる支援室というのは、市民がどこに相談したらよいかわからない時に一括して聞くとところなのかなと思いますが、つなげる支援室自体を私が知らず、市のホームページで調べてみると、電話番号、FAX 番号と主な業務内容「断らない相談支援体制の整備」と記載しているだけなので、何か、クリックしたら支援先のホームページに飛ぶというような工夫があってもよいのかなと感じました。

次に、基本目標 3 の「1 歳 6 か月児健康診査の受診率」について、97%とかなり高い結果が出ています。八尾市はベトナムの方をはじめ、外国籍の方が多いと思いますが、どのように周知して受診漏れがないようにするか、また、残り 3%の方はどのような方なのかが気になりました。

次にその下の「子ども・若者の健全育成に係る事業数」について、私も子どもが小さい時に子ども会に入っていたのですが、今は本当に子ども会の加入率も悪くなっていて、令和 5 年頃から数値が変わっておらず、目標値との乖離があるので、目標値の見直しが必要なのかなと思いました。

次に、私はこのために八尾市の市民委員になったと言っても過言ではないことなのですが、私は今、久宝寺駅の北側に住んでいるのですが、久宝寺駅は南側がすごく開発されていて、ライフやメガシティ、病院がペデストリアンデッキで繋がっています。私は最初、久宝寺駅の南側に住んでいたのですが、北に引っ越しました。そうすると、駅までのアクセスが

すごく悪くて、駅も小さな古いエレベーターが1基しかなく、通勤時はいつも行列になっているので、本当に乗りたい人が乗るのにかなり時間がかかってしまう状況です。

基本目標6の「都市計画道路の整備率」でJR久宝寺線の整備をしたとなっている部分については、今、北側の道路工事をしているので、そのことかと思いますが、久宝寺駅は利用客が多いですし、反対側には大きな階段はあるのですが、南側のように北側にもエスカレーターがついてくれたらいいなと思っています。

駅はまちの顔でもありますし、普段からよく利用するところなので、利便性を向上させることが市民の暮らしやすさに繋がるのではないかと思います。

和田会長

ありがとうございます。4点分かりやすくご説明いただきました。特に4点目は市民委員になられた理由でもあったということでした。では、事務局、ご返答をお願いします。

事務局

まず、「つなげる支援室で支援調整を行い終結した割合」については、必要な支援にお繋ぎすることができたことをもって終結ということで、その必要な支援にたどり着いた方の割合ということになっております。

また、ホームページについては、担当課にいただいたご意見を伝えておきたいと思います。

事務局

補足をさせていただきます。

ホームページについては、確かに少し分かりにくいホームページになっておりまして、断らない相談支援の体制づくりというのが、実は八尾市版の重層的支援体制の整備ということで、国も掲げている取り組みの一環でもあります。その1つとして、担当窓口としてつなげる支援室があるという形になっています。

重層的支援体制の整備の事業については、市のホームページでも細かく載せてはいるのですが、委員がおっしゃるように、リンクを張るである等の情報発信の工夫についてご意見をいただいたということで担当課へお伝えさせていただきます。

2つ目の外国人の方も含めた1歳6か月健診の受診の周知については、現在、個別通知という形でそれぞれのお宅に通知をさせていただいておりますが、未受診の方に対してどこまでフォローアップできているのか、アウトリーチ型で何か問いかけをしていくような具体的な仕組みや方法につきましては、担当課に改めて確認させていただき、何らかの形でお答えさせていただければと思います。

3つ目の「子ども・若者の健全育成に係る事業数」について、目標値の見直しをというご意見ありがとうございます。目標値については、総合戦略の後期戦略を策定する際に令和10年度の最終目標値として冊子に記載しているところです。

今後の課題として、未達の場合に目標値を下げるのか、もしくは仮に現時点でも10年度の目標をはるかに超えることがあった場合にその数値を見直すのか、といったご意見もいただいているところですが、一旦、令和10年度につきましては冊子で定めているということで、今後、その効果検証をどのようにしていくのかという点について、またご意見いただければと思っております。

4つ目の久宝寺駅の部分については、まず道路についてご意見をいただいております。現状、アンダーパスと言いまして、線路の下をくぐる道路が南側への一方通行の車道という形になっているのですが、現在、そこを北側にも行けるような形での車道の拡幅工事に取りかかっております。

なお、駅舎への動線の部分のご意見については、担当課にお伝えさせていただき、鉄道事業者であるJRとも課題等の共有を図ってまいります。

和田会長

ほか、いかがでしょうか。

野村委員

何度か同じことをお伝えしていると思うのですが、基本目標3の「学校に行くのは楽しい」という児童生徒の割合」について、社会性や協調性を高めるといのは学校において大事だと思うのですが、共感力については外国人の方が増えてきて多様性も大事だと言われている時代に、共感力があって、学校は楽しいところだという前提が、逆に子どもを苦しめてしまうことにならないかなと感じています。

学校に行くのがつらいとか、行くのがしんどいとか、そういう子どもたちを救えるような形になるのが一番大事かなと思っており、共感力という言葉が今の時代には少し合わなくなってきているワードなのかなと思いました。

和田会長

以前も同様の意見があったと思いますが、和泉副会長いかがでしょうか。

和泉副会長

私も野村委員と同じような意見でして、少し語弊がありますが、別に、学校が楽しいと思うことは良いことだと思いますし、悪いことではないと思っています。

ただ、学校に行くことが楽しくないことが悪いという風になってしまって、そう思っている子どもを苦しめてしまうことになるのは良くないかなと思いますので、そのあたりは少し考えていかないといけないと思っています。

和田会長

先生から少し補足いただいた上で、事務局、ご返答ございましたらお願いします。

事務局

はい、ありがとうございます。

「学校に行くのは楽しい」という K P I の部分についてのご意見、ご指摘は、以前からもいただいております。

教育委員会としては、学校現場でのアンケートの取り方について、全国の学力調査のアンケート項目をこの K P I として設定しており、その数値を追跡しやすいような仕組みでの指標設定をしているというのが理由になります。

ご意見をいただいている、多様性と言いますか、様々なお子様の観点での指標設定については、今後、次期の総合戦略の策定期間にもなりますので、そういったところで、指標の工夫については、引き続き、担当部署とも連携しながら、見直せる部分については、見直しのタイミングで見直すという、広い視野、視点を持ちながら検討できるような形で、また共有をさせていただきます。

和田会長

指標の表現の部分は見直しの時期なのかもしれません。大変かと思いますが、ぜひ事務局その辺の工夫をよろしくお願いします。

ほか、いかがでしょうか。

高島委員

基本目標 5 の「産業分野にかかわる関係人口の対基準年度比率」について、産業分野に関わる関係人口自体は、確かに R 5 年度基準は達成されていますが、原因分析の文章を拝見すると、2025 年大阪・関西万博開催を契機とした関連企画が市内でも多数実施された結果、基準値を上回ることができたとは書かれているものの、それでも前年度よりかなり減っていますし、K P I の実績値を見ても、基準値は超えているかもしれないですが、ほとんど前年度より実績が良くなく、全体的に減っているように感じたので、減っている理由をもう少し深掘りして考える必要があると感じました。

和田会長

事務局、そのあたりについては、どのようにお考えでしょうか。

事務局

本日、担当課が出席しておりませんので、お答えできる範囲になりますが、右側の分析の欄に記載している部分も含めてお話させていただきます。

まず 1 つ目の「立地制度活用による雇用人数」について、かなり数値が下がっています

が、これは以前、立地件数を指標にしていたのですが、後期戦略からは、実際にその立地によって新たに雇用された人数という指標に変更したものです。工場立地については、土地がないとなかなか進まないということもあり、雇用人数に変更した経過がありますが、今回、工場立地件数自体が1件となっています。やはり、先行きが不透明な中で、工場立地が進まなかったという状況があり、また、その1件についても、雇用人数が少なかったという結果になっております。そもそも土地が十分でないということが課題だと考えています。

次に、前年度から下がったもので言うと、先ほどご指摘があった「産業分野にかかわる関係人口の対基準年度比率」についてですが、こちらについては、申し訳ございませんが、今のところ下がった原因までは把握できていません。

続いて、「中小企業におけるイノベーション実践数」について、こちらも前年度から下がっていますが、こちらは前年度に事業拡大して実施した事業者向けの補助金がありましたが、その規模が縮小したことが影響しています。補助件数がこの指標のカウントの1つになっているので、拡充していた部分がなくなったことで、今回、数値が下がっているという状況です。

次に、「次世代企業家育成において市内企業がメンター役を担う割合」と「創業支援対象者のうち創業者数」については、どちらも目標値と同じ値で達成しているのですが、前年度や基準値については下がってしまっています。

「次世代企業家育成において市内企業がメンター役を担う割合」については、申し訳ございませんが、現時点で詳しい確認ができておりませんが、「創業支援対象者のうち創業者数」については、市の方で指標設定はしているのですが、様々な関係機関でも創業支援をしていたり、それらを最終的に集計して、年度末に数値を出すという形になっております。その結果、数値が低かったということですが、今のところ、申し訳ございませんが、原因分析まではできていない状況です。

高島委員

原因分析は書いていただいた方がいいかと思います。

目標は達成しているものの前年度から減っているものがあり、これを見ているとうまく回っていないのではというふうに感じます。

もし1つ目の基本目標指標のように理由がはっきり分かっているのであれば、変えないといけない点などを右側の原因分析の欄に書いていただけたらすごく分かりやすいのではないかなと思いました。

和田会長

今のご指摘については、本当にごもっともだと思います。分析や説明はここに書いていますが、それを受けてどう改善していくのかというところが、もう少し見えてくる形の方が良いのかなと思います。

今日は所管課の方がいらっしゃらないというところも、もしかしたらあるのかもしれませんが、やはりデータから見て改善に繋がっていかないといけないというところは非常に大きいと思いますので、高島委員からのご指摘については、ぜひ、所管課の方にもお伝えいただければと思います。

それでは、皆様、細かいところまでしっかり見ていただきまして、事務局の方も今後に向けてかなり参考になる部分が多かったと思いますので、資料2については、ここで一旦区切らせていただき、また最終的に聞き洩らしたところ等については、なるべく時間を取りたいと思っていますので、次の議事に移らせていただきたいと思います。

今日が初めての委員の方もいらっしゃいますけれども、こんな感じで進めていくということでは、リズムに乗っていただき、委員全員に一言ずつは必ずご発言をいただきたいと思っていますので、何かまたご意見をいただきたいと思っています。

3. 新しい地方経済・生活環境創生交付金事業等の効果検証について

和田会長

それでは、次第3. 新しい地方経済・生活環境創生交付金事業等の効果検証について、事務局、ご説明をお願いします。

事務局

(資料3から8まで一括して説明)

和田会長

ただいま、新しい地方経済・生活環境創生交付金事業等の効果検証について、6件一括で事務局より説明がありました。

それでは、進捗管理・効果検証に移りたいと思います。指標の実績値や具体的な取り組みに関して評価できる点や改善すべき点、また、事務局の説明において不明な点がありましたら単に質問でも構いませんので、ご意見あれば挙手をお願いいたします。

野村委員

資料6の建築行政サービスについて、弊社は八尾市からこういうのがあるよと教えていただいたので活用することができたのですが、八尾市から出ている広報物に書かれていたのを見たことがない気がしますので書いていた方がよいと思います。書いていてもやるかどうかは別だと思いますが、プッシュが必要なのかなと思いました。八尾市と繋がっている企業ならそういったプッシュがあって実行しようと思われると思うので、企業との連携が大事だと思いました。

資料5について、前回の審議会資料では「八尾愛が強い人々」という表現があったかと思いますが、今回、「八尾の魅力を友人や知り合いに推奨する気持ちが強い市民」という表現

に変わっていたので、その点についてありがとうございますというのと、「市外から本市への観光来訪者数」について、訪れた人が全員、全部の観光スポットに行っているのかについては疑問です。というのも、弊社の場合、有料の体験に八尾、堺、福岡の3店舗で約15,000人、各店舗で約5,000人がいらっしゃっていますが、買い物客はそこに含まれていないというのがあります。交通手段を使わずに車でいらっしゃった場合は、弊社としても各店舗で何人来ているというのはお伝えしていないと思うので、どういう風に算出しているのかなと思いました。

事務局

建築行政サービスについて、PR等が不足しているというのはどうしても事業者様が多く利用されるシステムでございますので、まず事業者様向けにしっかり周知させていただいており、今年度からは、市民の方に向けても、しっかり広報させていただきたいなと思っております。

事務局

本市への観光来訪者数については、公益社団法人日本観光振興協会というところが、デジタル観光統計オープンデータという、いわゆるスマホの情報のビックデータを活用して各地点への訪れた人数を出しておられるので、その数値を指標として活用させていただいております。

和田会長

ほか、いかがでしょうか。

中村委員

資料8の企業版ふるさと納税について、令和7年の寄附実績の欄は11件となっていますが、3ページ目を見ると令和8年度が7事業に絞られているので、この事業項目を選定するには何か基準があるのかをお伺いしたいと思います。

例えば、令和7年度の項目にあるスクールキッズ・スクエア事業や、図書館管理運営業務等の子どもや教育に関わる部分は、寄附したいという企業も一定いらっしゃると思うので、メニューとして残しておいてもよかったのではないかなという部分と、3ページ目の参考掲載の個人のふるさと納税の活用分野では、未来を育むまちづくりということで入れているのですが、企業版ふるさと納税でもそういった項目であってもいいのかなと個人的に思ったので、何か選定理由があるのであれば聞きたいなと思っております。

事務局

まず企業版ふるさと納税につきましては、地方創生応援税制という形で地方創生制度の

もとで行われている事業であり、寄附の対象となる事業の選定については地域再生計画に基づく取り組みということが条件として定められています。

本市の場合は、地域再生計画と総合戦略の内容がほぼイコールな形で色々な事業に適用できるような仕組みはとっているのですが、その中でさらに企業版ふるさと納税の縛りとしましては、新規事業や、継続・既存の事業であってもその年度から大きく変わるような事業にしか充当が難しいという制度の仕組みになっておりますので、それぞれ新規事業やその年度で大きく変わるものをラインナップさせていただいています。

また、3 ページ目の参考掲載の個人からのがんばれ八尾応援寄附金（ふるさと納税）につきましては、そういった新規等の条件がありませんので、すべての分野についてご寄附の意向を示されたところは受けていけるという形になっております。

卯川委員

ここで、資料2の補足説明をしたいと思います。基本目標3の「学校に行くのは楽しい」という児童生徒の割合」について、毎年4月に行われる全国学力テストでアンケート調査が実施されており、自己肯定感やスマホ利用、学習状況もわかる調査ですが、八尾市ではなく文部科学省のものなので、八尾市においてアンケート項目や文言の変更というのは当てはまらないかなと思いました。

和田会長

資料2の補足説明ということでした。

ほか、いかがでしょうか。

川中委員

資料7の公開型GISに関する利用者満足度について、R5年度の目標が50%、実績が100%に対して、R6年度は目標60%、実績66%で目標には達していますが、R5年度と比較してどういった声があったのかなと気になり、質問しました。

事務局

実際にあった意見の内容については詳細把握できていないのですが、R5年度と令和6、7年度の違いとしましては、R5年度は、運用開始したのが年度末で、ひと月ほどの運用期間でしたので、そもそものアンケートの回答者数が非常に少なかったのが原因かと思っています。

なお、そのアンケートにおいて、こういったマップのメニューが欲しいというようなご意見はR5年度にあったということは聞いておりまして、そういったご意見に対してはお答えをして、マップのメニューの拡充をR6年度に行う対応をしたと聞いております。

稲岡委員

資料3の「八尾市のInstagramフォロワー数」について、資料2でもありましたが、他の市でもInstagramフォロワー数を増やそうとアドバイスをいただける会社を呼んで色々なことをしているみたいなのですが、八尾市では何かそういった取り組みをされているのかを聞きたいということが1つ目の質問です。

もう1つは、KPIについて、フォロワー数となっているが、フォロワー数だけではなく、何かインプレッション数などといったものもあるかと思いますが、そのような指標については取っているのか知りたいです。

事務局

まず1つ目は、八尾市のInstagramの運営に関する研修についての質問であったかと思っております。資料3においては、現在、プロモーションPTで運営しているInstagramのフォロワー数を指標としていますが、八尾市役所全体においては、プロモーションPTの他に消防など様々な部署において、Instagramで発信を行っており、市全体としてどういう運用をしているのかということを、現在、広報課の方で調査を進めているところです。

その調査結果を踏まえて、今後、どういった運用をしていくことによってフォロワー数を増やしたり、必要な情報をどう提供していくのか等の考え方を市として整理していくものかと思っておりますので、まだ具体的な研修というところまで至っておりません。

今後こういったあらゆる委員意見も参考に研修等を考えていくことになるかと思えます。

また、フォロワー数だけではなく、メンションの数や動向についての様々な数につきましては、担当の方で、常に調査をしながらどういった動向であるかの把握はしています。それを踏まえてどうやって広がっていくのか、また、先ほど言いましたように、市の中で色々な部署がInstagramを運営しておりますので、それらをどうやって繋げて相乗効果を生み出していくのかということについても試行錯誤しながら取り組んでいるところです。

今後、市の広報課で行っております調査で全体的な動向を踏まえて、オール八尾市としてどのような取り組みを進めていくか考えていきたいと思えます。

ぜひまた、色々ご助言いただけたらと思っていますので、よろしくお願いいたします。

野村委員

八尾市のアカウントがまず探せないです。そこはすごく大事かもしれません。何で検索したら引っかかるのでしょうか。八尾市で検索した時にすぐに出てこないとまずいかもありません。

事務局

そちらにつきましては、市政だより等々でわかりやすく表示するなど広報していきたい

と思います。

資料3のK P Iのアカウントについては「ええとこ八尾自慢」のフォロワー数となっております。

野村委員

アカウント名については、「八尾」というのが最初に入っていた方が分かりやすいかもしれません。読み方についても、「やつお」ではなく「やお」ということも知ってもらえるようにした方がいいと思います。

和田会長

アカウント名については、一番大事なところかと思いますので、変更を検討された方がいいかもしれません。

資料3に関しましては、和泉副会長、お名前も出ていますし、いかがでしょうか。

和泉副会長

「大阪・関西万博への参加・参画を踏まえたプロモーションの基本的な考え方」の策定にあたっては、人に着目してプロモーションを進めるべきではないかという助言をさせていただきました。

事務局

先ほどの私の資料3の説明の中でも触れさせていただきましたが、プロモーションの方針策定については、和泉副会長の助言をいただきながら整理してきました。

大阪・関西万博で八尾という存在が非常に色々なところで着目された実績があると自負していますが、これは単に行政が計画を立ててそれを実行したというだけではなく、もともと八尾のことが好きな人たちは、八尾のことを色んなところで知ってもらいたいという気持ちが非常に強い思いの人たち、それが大阪・関西万博の会場や会場外など色んなところで自発的に動いてくれたというのが、八尾の万博における参画の成功に至った大きな要因と整理をしています。

そういったことを踏まえると、八尾はやはり八尾が好きな人たちが非常に多いという特徴があり、和泉副会長からは、人に注目した考え方で八尾をどう広めていくのか、八尾は元気な人たちがいっぱいいるということを外の人に見てもらおうというところが、今後の八尾のプロモーションにおいて重要ではないかという意見をいただき、整理をさせていただきました。

和泉副会長

効果検証についてというわけではなく、少し要望というか、そういう発言になるのですが、

交付金事業について、例えば観光分野なら、委託事業や市から補助を出して事業を展開するケースが多いと思います。ただ、補助がある間だけ取り組みをして、補助が終わったらそこで終わってしまうという形になってしまうのは、本来あまり望ましくないのかなと感じています。

本来的には、地域の事業所自身が補助に頼らなくても観光に取り組めるようになるだとか、観光にビジネスチャンスを見出して自分たちの事業として展開していけるようになるというところに繋げていかないといけないと思います。

今回の事業について言っているわけではないですが、一般的に、補助金や交付金がなくても観光市場が回っていくようにするにはどうしたらいいのかを行政だけで考えるのではなく、事業者と一緒に考えるというスタンスに少しずつ切り替えていく必要があるのかなと思いました。

和田会長

ありがとうございます。補助金が終われば終わりではなくて、種まきと言いますか、きっかけになって自立を促して、一つの事業として展開していくというのが本来の交付金や補助金のあり方だと思いますので、本当に和泉副会長のおっしゃる通りだと思います。

八尾市は積極的に事業展開されているのですが、市民委員の方、住んでいてもっとこうなってほしいという意見など、いかがでしょうか。

堤委員

資料3に関係することかもしれませんが、YouTube で「大松市長の推しごと紹介」というのがあると思いますが、こういう企画はどなたがどう制作されているのかなと思いました。

大松市長がピンクのアフロを被って、真面目な顔で出演されていて、非常にシュールだったのですが、ここまでやってらっしゃるのに再生回数がそれほどあがりません。

市長がやっているのだから職員の方もまず1回は見て再生回数をあげようとか、皆さんが当事者意識を持って八尾市を盛り上げようというのはないのかなと疑問に思いました。

事務局

市長出演のYouTube の内容については、何をテーマにするかは市政だよりとリンクさせており、これまでも市政だよりでトップページや特集記事を中心に上げてきました。

今回については、7月12日にこども総合支援センター「ほっぷ」がリニューアルオープンすることを契機といたしまして、それをPRするため、いじめ防止の啓発のピンクシャツを着てYouTube 配信をさせてもらいました。

また、ご指摘の通り、職員へも視聴を促し、できるだけ再生回数を上げる取り組みについても必要だと思っています。やはり職員がこうしたYouTube を見ることで今の市政の重要

なことが職員にも伝わりますので、できる限り見ていくということを、意識的にやっていくべきかなと思いますので、ここにいる職員を含めて、再生回数アップに向けて取り組んで参りたいと思います。

和田会長

ありがとうございます。役所全体で一丸となって八尾市を盛り上げようというご指摘になったのかなと思います。

企業版ふるさと納税などについても企業代表で来られている方々の何かご意見、また、Webで参加の岡田委員いかがでしょうか。

岡田委員

資料2について、先ほど各委員からもご指摘のあった通り、単に目標を上回った・下回ったというだけではなく、なぜ上回ったのか、あるいはさらに拡大するためにはどうしたらいいのかというところを書いてもらった方が議論しやすいのかなと思いました。

また、基本目標1～6までそれぞれ効果検証はしたのですが、全体としてどう評価するのかという点について、八尾市としてどう考えているのかなと思いました。

事務局

この後の議事にも関わってくる内容ですが、令和7年度に八尾市総合戦略の効果検証について市長から当審議会に対して諮問されています。

この部分につきましては、答申書という形で、総合戦略がトータルとしてどう進んでいるのかというところを審議会としてまとめいただくというような形を考えております。

基本目標1～6の行政としての総括につきましては、それぞれのページの最下部に記載している評価をもって市としての評価とさせていただいている次第です。

岡田委員

事務局としては全体としては評価しなくて個別で評価しているという理解でよろしいでしょうか。

事務局

はい。それぞれの基本目標ごとの評価という形でさせていただいており、トータルとしては審議会としての答申をいただくというような形で考えております。

岡田委員

基本目標1～6の中で特にこれに力を入れてとかそういうことはなく、どれも満遍なくやっているみたいなのところでしょうか。おそらくどこに重点を置くかによって条件は違っ

てくるのかなと思ったりしたのですが。

事務局

すべての基本目標について総合的に進めていくというのが本市の総合戦略の特徴となっております。

この総合戦略自体は、その上にある八尾市の総合計画から地方創生に資する取り組みをそれぞれの基本目標の1～6にそれぞれ位置付けおり、すべての基本目標が大事な視点ということで進めさせていただいております。

和田会長

ほか、資料2も含めまして、ご発言ない方、いかがでしょうか。

浦野委員

資料2の基本目標5の「立地制度活用による雇用人数」について、原因分析の説明を読んでいると、外部環境によるものというイメージで捉えているのですが、何か施策として打っていることがあれば教えていただきたいと思っています。

例えば、進出しやすいように用途地域を変更するといったことや、騒音問題を防止するためにその工事費の一部の助成があるなど、細かい部分の含めて色々な対応があると思いますが、何か施策を打たれていることがあれば教えていただきたいと思います。

事務局

まず、「立地制度活用による」と記載している制度ですが、これは「八尾市ものづくり集積促進奨励金」というもので、八尾市内の工業系の地域内で市内移転も含め新たに工場を設置される場合に、固定資産税の一部を奨励金として最長5年間交付する制度を実施しております。

また、確かに住工混在というようなところで様々課題がありますが、用途地域の変更については都市計画の分野に関わることでありますので、事業者に対して操業するにあたっての苦情が出ないような方策について都市計画の手法等も検討しつつ、良い方法を模索していければと考えております。

和田会長

商工会議所の江口委員、この事業との絡みで何か、最近活動されていること等でも結構ですので、ご意見いただけますでしょうか。

江口委員

意見というほどではないですが、お願いということでお話させていただきます。

基本目標5に創業支援について書かれており、私ども商工会議所では、金融機関とも連携しながら創業支援に取り組んでおりますが、人口が減少していく中で、事業所の数も年々減ってきているという状況があります。

国際競争に打ち勝っていくためには、大きな企業が頑張っていただかないといけないですが、地域においては、小規模であっても事業所の数を維持していくことを、まず続けていく必要があるのではないかと思います。

特に最近では事業承継の問題が非常に大きくなっておりまして、結果として企業価値が十分に残っていない状態で、無理に事業承継が成り立つのかという課題もあります。

企業価値がある事業所について事業承継を支援していくことは当然重要ですが、それと同時に、廃業を上回る形で創業が生まれていく状況をつくっていかねばならないと思っています。

その点については、八尾市とも一緒に取り組んでいるところではありますが、なかなか創業の数が爆発的に増えていないと、資料には163という数字が出ていますが、当然それ以上に廃業がたくさんある状況となっています。

八尾市ではあきんど起業塾というセミナーを実施され、私どもも創業の相談などを行っておりますが、実際に創業を考えている方と話をする中で、八尾で創業するメリットは何かと聞かれたときに、他市と比べて八尾で創業の方がお得ですよ、いいですよとはっきり打ち出せてないかと思います。

それに関しては、ばらまきになる可能性はあるかもしれませんが、スタートアップの事業者に対する資金的な支援や、資金支援だけに限らない形で、さまざまな施策と組み合わせてインセンティブを出していくような支援についても検討していく必要があるのではないかと思います。もちろん八尾で創業することの事業環境のよさをアピールしていくことも大事だと思いますので、そういった部分は大きな枠組みの中にある創業の支援ということをしかりと重要な部分として位置付けて、施策を展開していただきたいと引き続きお願いしたいと思います。

和田会長

重要なご意見、ご要望ありがとうございました。

まさに、ゾンビ的に残っていく事業は、それをどうしていくかという資金面の問題もありますし、こういう事業承継なら融資したいと思えるようなものもあるかと思います。菱川委員はいかがでしょう。

菱川委員

おっしゃる通りで、事業承継等々については、うちの銀行だけではなく色々な銀行がソリューションビジネスの一環で取り組みを行っているところですが、個人的に思うのは、事業所に対するアナウンスが一銀行としてはなかなか難しいと感じておりますので、もっとそ

ういったところで、行政と一緒に何かやっていくことができないかは私どもも課題だと思っています。色々と情報交換しながら八尾市独自で何かできたらいいなと思っておりますので、また別のところで改めてご相談できたらと思っております。

和田会長

マッチングの場づくりというのを事務局の方でぜひ作っていただければと思いますので引き続きよろしくお願いいたします。

また事業所数が減るということは雇用者数も減っていくということで、柳沢委員いかがでしょうか。

柳沢委員

私どもは東大阪も管轄していますので、事業所の社長と色々お話をするのですが、やはり周りではどんどん廃業される事業所が増えているという話を聞きます。理由としては、今やめて土地を売れば黒字になるからと言う社長も結構いるという話は聞いています。

一方で、従業員は同業他社に雇ってもらえるものの、仕事については提示される単価があまりにも低かったので断っているという話も聞きます。

また、人材不足には非常に苦労されており、特に若い人が採れないというのがあります。新聞等にも載っていますが、高校生の採用ができないと。昨日から高校生向けの求人票を立ち上げて、学校で募集をしているものの、昔なら1、2人は必ず応募があったところ、現在はゼロで、問い合わせすらないという状況らしいです。

若い方がハローワークをなかなか利用しない傾向にある中で、どうすれば利用してもらえるのかという点についても、地道に考えているところです。

そうした中で、来週、若い求職者を連れて工場見学にいくのですが、実際に行ったら結構、八尾も東大阪には地元の製造業でいいところがいっぱいあるので、そういったところを見せると受けたいという人もいるので若干そこに期待しています。

ただ、川中委員のような若い方が製造業に対して持っているイメージとしては、まだ昭和っぽく、重たいものを持つ、環境が悪いといった印象があるかと思います。しかし、今はそういう感じじゃない場所も増えています。

八尾はものづくりのまちを推している市だと思いますので、先ほど堤委員がおっしゃったように、例えば、市長が面白おかしく、新採の職員を何人か呼んで「この会社に体験で行って来い」というようにシリーズ化したり、インスタも私はどちらかと言うと、オール八尾市として発信するのではなく、観光客向け、市民向けといった形で分けてはどうかと思います。私自身、趣味のアカウントは継続して見っていますが、その中にいきなり関係のない情報が出てくるのもどうかと思うので、そのあたりは広報の視点で整理してもらった方がよいかと思います。

和田会長

ありがとうございます。皆さんマイクを向けるといつもご専門の立場から貴重なご意見がたくさん出ますので、この会議はいつも大変有意義でございます。事務局の方、色々と参考になるかと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

事務局

資料2について補足説明をさせていただきたいと思います。

まず、基本目標3の「学校に行くのは楽しい」という児童生徒の割合」についてですが、確か野村委員から2年前にもご意見をいただいていたかと記憶しております。

前期戦略においても、同じ基本目標3の中で施策 KPI として設定しており、後期戦略においても、引き続き設定させていただいているところです。

2年前の議論の際には、それに加えて和泉先生からもご意見をいただきました。基本目標の部分で現在の後期戦略では「自分にはよいところがある」という児童生徒の割合」となっていますが、前期戦略では「将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合」となっていました。そこについて、夢や目標を持ってないといけないのか、それを聞くのはいいが、基本目標として設定するのはどうだろうかというご意見を頂戴したことを踏まえて、後期戦略の基本目標においては、本市で進めている非認知能力の育成等々に視点をおいて、自己肯定感や自己有用感といったところをみていこうということで指標を置き換えた経過があります。

「学校に行くのは楽しい」という部分については、野村委員のご指摘のところの部分もでございますが、引き続き、施策 KPI として設定させていただいています。理由としましては、基本目標3については、基本的方向・施策が4つあり、そのうちの1つが、未来を切り拓く子どもを育てるまちづくりでありまして、その取り組みの主なところが学校づくりになっています。安全安心して通学できる学校環境の整備や、小規模特認校制度の推進など、将来を見据えた教育環境づくりがポイントとなっています。そうした学校づくりの取り組みの成果を把握する指標として「学校に行くのは楽しい」という児童生徒の割合」を、引き続き、設定させていただいているところです。

当然、野村委員がおっしゃっていただいたことも分かりますので、ご指摘のような観点での指標を設定できるかというところは引き続き、検討を進めていきたいと思っていますので、ご理解をお願いします。

和田会長

ありがとうございます。事務局の方では、2年前の意見を踏まえて指標を変えたり、また、引き続き、検討いただけるということで、丁寧なご説明ありがとうございました。

4. 答申（案）について

和田会長

それでは、次第４．答申（案）について、事務局、ご説明をお願いします。

事務局

（資料９説明）

和田会長

ただいま、答申（案）について、事務局より説明がありました。

昨年７月３０日の初回の審議会において市長から諮問された内容に対して、審議会として答申をする、その案のご説明がありました。審議会における効果検証や意見交換の内容については、議事録としてまとめられておりますので、市長に対して答申するにあたっては、コンパクトにまとめられている答申書１枚ということです。

事務局説明に対する質疑や、昨年７月の効果検証、また本日の効果検証の議論の内容を踏まえまして、下線部の内容をどう記載するかについてご意見があれば挙手をお願いいたします。

概ねよかったというポジティブな意見なのか、いやいや、厳しい意見を言っておきたいと思うかどうかといったところでございます。

<委員から意見なし>

皆様、意見がないということは概ねいいのではないかと思います。市民の方々特に頷いていらっしゃるから、さらに期待を込めてという感じでしょうか。事業関係の方々もよろしいでしょうか。

では、ここに入る文面としましては、「八尾市総合戦略のＫＰＩ達成に概ね有効であったとの結論に至りました」という結論かと思いますが、特にご異議ございませんでしょうか。

和泉副会長いかがでしょうか。

和泉副会長

個々に見ていくと色々あるのでしょうけれども、全体としては概ねＫＰＩは有効であったということで、ご提案いただいた表現でよろしいのではないのでしょうか。

和田会長

Web参加の岡田委員におきましてもよろしいでしょうか。

岡田委員

はい。結構でございます。

和田会長

それでは、皆様、ご異議なしということで、4つ目の次第を終えたいと思います。

5. 今後の審議会スケジュールについて

和田会長

それでは、次第5. 今後の審議会スケジュールについて、事務局、ご説明をお願いします。

事務局

(資料10 説明)

和田会長

ただいま、今後の審議会スケジュールについて、事務局より説明がありました。

次回の審議会において市長に答申をすれば、現在のこのメンバーが、委員委嘱されている期間における当審議会及び委員としての役目は終えることとなります。

そして、次期総合計画については、次年度から本格的に議論をしていく予定とのことですが、そのために、今年度末には改めて次の総合計画を議論していくための総合計画審議会を立ち上げるとのことです。

これを踏まえ、現在の委員の皆様におかれましては、元々の予定であった令和9年3月末の委嘱期間満了を待たずに解嘱の手続きをさせていただきたいという事務局からのご説明でした。

この件について、質疑やご意見あれば挙手をお願いいたします。

菱川委員

改めて質問させてください。

次回が第4回の令和8年11月頃で、その時には、今日確認した進捗を踏まえて、次期総合計画に繋がるアイデアを出していくことでよろしいでしょうか。

そうすると、要望にはなりますが、アイデアを出すためには、先ほども何度も話題になっていた要因分析がしっかりできていないと次のアイデアに進めないと思います。なぜ達成できなかったのか、このような進捗になったのか、原因はどうだったのかという部分が見えないと、次はこうしようという活発なアイデアが出にくいと思います。

11月まであと4ヶ月ほどでタイトかもしれませんが、ぜひ要因分析の部分についても資料として事前にいただけたら、それを踏まえてアイデアを色々と考えて、またここで活発に意見交換できるのかなと思います。

また、非常に言いにくい話ではありますが、今日初めて参加させていただいた立場として、資料を読み上げる時間が非常に長いと感じました。当日その場で資料をいただくという

ことなら当然内容は分からないので読み合わせは必要かと思いますが、今回は開催案内届 5 月 28 日付でいただいております、資料も事前にいただいていたので、皆さんある程度読んでいるのかなと、もし読んでいないのであれば熟読して次参加しましょうというアナウンスさえあれば、半分の時間でポイントだけを言っていただければ、その残りの半分で、もっといいディスカッションができるのかなと思いました。もしできるなら、早めの資料発送と熟読のお願いをして、いきなりディスカッションが始められるような会が次回できればよいと思いました。

和田会長

ありがとうございます。今の 2 点、皆様もお感じだと思いますし、事務局の方ももう少し短くしますとおっしゃっているのですが、いつも丁寧にご説明くださるので、やはり、新しく委員になられた方もその辺思っておられるということなので、事務局のご説明は、ほぼ質問、意見に対してのご返答を優先的にしていただくというのがよいと思います。

資料の説明については時間が押していく原因にもなるかと思いますが、今日でも時間を見ていると事務局のご説明がかなりあったかなと思います。企業の方は特に事前に読んできてすぐにディスカッションするというのが通例かと思いますが、そういう風に思ったのだと思います。

また、要因分析については、しっかりとできていないと次のアイデアが出てこないというのはごもっともだと思いますので、次回までに今回の効果検証を踏まえて、どの辺が問題点でどのように改善していくのかを予め事務局としてはこう考えているという資料をご準備いただくということについて、私も思うところがございますので、お願いしておきたいと思います。

ほか、よろしいでしょうか。

野村委員

江口委員から創業の会社に援助できるようにしてほしいというお話があったかと思いますが、小さい中小企業だと台風などで雨漏りしたり設備的に老朽化しているところが八尾市は非常に多いので、金融機関におかれましては、そういった部分の援助もよろしく願います。

和田会長

ほか、よろしいでしょうか。

川中委員

インスタグラムのフォロワーの話で、私は八尾市の大学に通っているのですが、学生は八尾市のインスタグラムは知らないと思うので、私も周知に協力したいなと思いました。

八尾市のインスタグラムを知っているかのアンケートをしたり、八尾市で映画祭を開催されたと思いますが、そのイベントにおいて入賞しているので、プロモーションで協力できるのではと思いました。

和田会長

ありがとうございました。若い方の心強い協力体制、ぜひ事務局、ご相談していいものを生み出してください。

以上をもちまして、議事はすべて終了いたしました。

では、事務局に議事進行をお返しします。

6. 閉会

事務局

皆様ありがとうございました。

先ほど菱川委員からご意見がありましたが、次回の審議会に向けた資料づくりや、当日の説明の仕方については、できるだけ簡素な形を意識して進めていきたいと考えております。

ただ、公開の会議となっておりますので、最低限、資料の主旨の説明は必要かと思っておりますので、そのあたりのバランスを意識しながら、今後の審議会運営に活かしていきたいと思えます。

それでは、閉会にあたりまして、政策企画部長 山原よりご挨拶申し上げます。

山原政策企画部長

閉会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、また、長時間にわたり、活発なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

本日は、総合戦略の効果検証と進捗管理、交付金事業の効果検証、さらに今後の答申（案）についてなど多岐にわたりご意見いただき、ありがとうございます。

次回は、市長への答申や、今後の計画、地方創生に対する取り組みへの意見交換を予定しておりますので、引き続き、よろしくお願いします。

明日で6月議会が終了する予定となっておりますが、八尾市としては、今回、物価高騰対応として、在宅の子育て世帯への支援に光を当てております。ものづくり関係もあるのですが、今回、交付限度額が9,800万程度という中で、在宅の子育て世帯への支援を行う方向で、最終、明日決定されるというところでございます。

国際情勢や物価高騰など、厳しい状況が続いておりますが、市民に一番身近な基礎自治体として色々な対応をしていきたいと思えます。

また、今回ご説明させていただきました事業についても、八尾市として、地方創生の推進に寄与する取り組みとして進めていきたいと考えておりますので、引き続き、よろしくお願いします。

いします。

直近で台風もありましたし、間もなく梅雨も明けて酷暑が予測されますので、委員の皆様におかれましては、体調にご留意いただき、引き続き、ご協力、ご支援をお願いしたいと思います。

簡単ではございますが、閉会のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局

それでは、以上をもちまして、第3回八尾市総合計画審議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。